



橋北小学校
学校だより

No.11
学力学習状況調査号
令和7年9月9日

令和7年度全国学力学習状況調査の結果から

4月17日に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。この調査は、全国の6年生を対象に5年生までの学習内容の定着と、学習や生活の状況を調査するものです。今回の結果から見てきた本校の学力の状況(強みや弱み)、改善に向けての取り組み等について下記のとおりお知らせします。一人ひとりの結果については1学期末懇談会にて個人票をお渡ししました。2学期これから、その結果をもとに、強みをさらに伸ばすとともに、弱みの改善にむけて取り組んでいきましょう。

1

学力の状況(国語・算数・理科)



本校の正答率を全国平均と比較すると、国語・算数・理科3教科とも全国平均の正答率を上回る結果となりました。今回の調査結果からわかった各教科の領域別の結果、及び「強み(○)」と「弱み(▲)」は次の通りです。

国語

平均正答率は、全国平均を上回る結果となりました

領域別にみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」がやや全国平均を下回るが、その他の「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を上回る結果でした。

○無解答者0人の問題が、全14問中10問。また、記述問題(文章で解答を書く問題)に対して9割以上の子が最後まで書くことに努力したと答え、平均正答率が全国より約7ポイント高い。

▲目的に応じて図や表から必要な情報を結び付けたり、問題文の読み取りや適切な言葉の選択に弱さがみられる。

○漢字の書き取りについては、「好み」は高い正答率だが、「暑い」は6割程度の正答率となっている。

「暑い」については、同じ読み方の漢字や無回答の児童がいた。

▲学校の授業外、平日に1日当たり読書をする時間がないあるいは30分未満の子が、78%である。「おうちに本が0~10冊ある」と回答した子どもが31.3%、全国平均(15%)の倍である。

一番の課題は、「国語の授業が得意、好き」について否定的な回答をする子どもが約半分いることです。

国語の思考力判断力表現力を身につけることで、自分の思いや考えを周りにわかりやすく伝えることができ、他教科の学習にも役に立つことを子どもたちに実感を持って経験できるように、授業改善を行います。

また、あらゆる学習活動の中で「漢字を適切に使って文章を書く」ことも、引き続き大切にしていきます。

算数

平均正答率は、全国平均を上回る結果となりました

領域別にみると「数と計算」「データの活用」は全国平均程度、「図形」は全国平均を上回り、「変化と関係」は全国平均をやや下回りました。

○図形の問題に関しては、全4問とも全国平均以上であり、うち2問は全国平均より10ポイント以

上高い。

○「算数の勉強が好き」肯定的回答が74.7%。さらに93%の子どもが算数の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと肯定的回答をしている。

▲割合問題(10%増量について)や、分数の理解について、弱さがみられる。

一番の課題は、記述問題で約4割の子どもたちが文章に書くことが苦手であるということです。表やグラフから必要な情報を読み取り、理由を記述することや、資料を読み取り判断し、根拠を述べて書くことに弱さがみられます。算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えたり、日常の場面で活用できる計算(算数で学習したこと)を確認したりする授業づくりを大切にしていきます。

理 科

平均正答率は、全国平均を上回る結果となりました

領域別にみると「エネルギー」「地球」は全国平均程度、「生命」は全国平均を大きく上回り、「粒子」は全国平均をやや下回りました。

○理科の勉強が好きな児童が多い。(肯定的回答90%)「理科の内容はよくわかる」肯定的回答93.8%。

「理科の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つ」肯定的回答87.6%。

○植物に関する問題の正答率が高い。顕微鏡の観察操作理解ができている。

▲アルミニウム、銅は「電気を通すが磁石に引き付けられない」ことを理解できていない。

一番の課題は、理科的な用語を使って条件を満たしつつ、文章を書くことです。全国平均は上回っているものの、国語科を中心に取り組んでいきます。これからも授業で学んだことを実生活に結び付けて考えたり生かしたりすることで、自分の生活が便利で豊かなものになるという経験をより多く実感させていきます。

2

学習や生活の状況



自分自身について

○昨年度課題としてあげられた「自分にはよいところがあると思う」については、90.6%の子どもが肯定的回答でした。保護者・教員・地域のまわりの大人が、子どものよさを見つけ、言葉で伝えてあげることが大切にし、学力だけでなく普段の心づかい、やさしさもその子のよさとしてほめてあげたりするなど、ご家庭や本校職員が、子どもたちがありのままの自分を受け入れ、お互いに自分自身や相手を誇りに思えるような関係づくり、環境づくりに努めてきた結果だと考える。

○「人の役に立つ人間になりたい」肯定的回答100%である。

○「友達関係に満足している」肯定的回答100%である。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」肯定的回答84.4%である。

家庭での生活・学習習慣について

○「朝食を毎日食べていますか」肯定的回答した児童の割合は全国平均を上回り、96.9%である。

▲「新聞を読んでいますか」について84.4%の子どもが、ほとんどあるいは全く読まないと回答している。

▲「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに、肯定的回答した児童の割合は全国平均を下回っている。(昨年度も課題としてあげています)

▲「学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」について。「1時間未満(全くしないも含む)」と回答した子どもの割合が、普段(月～金)は全体の50%、また土日や学校が休みの日には65.7%となっている。

今回の結果もいかし、これからも学校と家庭と地域が連携し、子どもたちの育ちを支えていきたいと思っております。引き続き、ご支援・ご協力くださいますようお願いいたします。